

# 障がい福祉の未来を築く

伊勢原市には、身体障害者手帳や療育手帳、精神障害者保健福祉手帳を持っている人が5026人います(10月1日時点)。このほか、難病や発達障がいなど、障害者手帳を持っていないけれども何かしらの生活のしづらさを抱えている人もいます。

市では、障がいのある人もない人も住み慣れた地域で安心して暮らせる社会の実現を目指して、障がい福祉サービスをはじめ、障がい福祉事業に取り組んでいます。

ともに生きる社会づくりには、地域の協力が不可欠です。幅広く多くの人に障がい福祉を理解してもらうため、さまざまな方法で積極的に知る機会を増やしています。今号では、学生を対象とした障がい福祉に関する取り組みを紹介します。

☎障がい福祉課 94-4720 95-7612

## 中学校で障がい福祉体験授業

さまざまな障がいがある人との出会いとふれあいを通じ、他者の立場や心情を思いやり、互いに支え合う心や姿勢などを養うため、中沢中学校2年生の3クラス(106人)で授業を行いました。各クラスで視覚、聴覚、精神、知的、

身体障がい者に、障がいの特性や生活上での困り事などを話していただきました。また、フットガードを取り付けた電動車椅子で行う「電動車椅子サッカー」や、目隠し歩行などのバリアフリー体験も行いました。

視覚障がい者が持つ白杖の役割を紹介



口や手で操作する電動車椅子サッカー選手

車イスで障害物を避けるのは難しいです



聴覚障がい者に手話で質問する生徒も



パスを受けてゴールを狙います



目隠しすると怖くてなかなか前に進めません

聴覚障がい者の質問に挙手で答える生徒



## ふれあい福祉まつりを開催

障がいのある人への理解を深め、社会参加への意欲を高めることを目的に、地域の皆さんと交流する催しです。障がい福祉に携わる団体の紹介や、施設で作られた雑貨の販売などを行います。

とき 12月9日(土)午前10時~午後2時まで  
ところ すこやか園、地域作業所ドリーム、伊勢原南コミュニティセンター\*桜台小学校が臨時駐車場として使用可

### 主な内容

どら焼き無料配布(先着500人)、ボランティア活動紹介、大道芸、バンド演奏、消防車・パトカー・白バイ乗車体験、スタンプラリー ほか  
当日の問合せ先  
すこやか園☎93-6914☎94-3846  
地域作業所ドリーム☎91-5000☎91-5005  
☎障がい福祉課☎94-4720☎95-7612



## 障がい福祉体験を通して...

授業を受けた中学生からさまざまな意見や感想がありました。



視覚障がいがある方にも、ぼんやり見える、全く見えないなど、皆さん見え方が違うことに驚いた。  
また、聴覚障がいがある方に対し、大きい声で話そうと思っていたが、ゆっくり明るくはきはきと話した方がいいことを知った。  
視覚・聴覚障がい者ともに、見ることも聞くことが難しくコミュニケーションで不便を感じていることが分かった。そのような方とコミュニケーションを取るために、歩み寄ることが必要だと思い、手話などを覚えることに興味を持った。



精神障がいがある方の中から、うつがすごかったとき、明るいのが怖くて1日中家から出られないと聞いた。今では半日仕事をしていたとのこと、その努力は並大抵のことではないだろうと感じた。  
知的障がいがあり作業が苦手な方が、長い時間をかけて仕事を覚え、今ではやりがいを感じ、掛け持ちもしていると感じた。また、障がい者が前向きに働ける施設があることもとてもいいと思った。

電動車椅子は簡単だと思ったけど、実際に乗ってみると難しかった。特に真つぐ安定して進むことが難しく、ぐらぐらしてしまった。また、手で操作するのも難しいのに、人工呼吸器を付けた方が、口で操作してサッカーをしていくのが難しかった。  
車椅子サッカーを通して人と関わる機会が増え、人生が変わったという話を聞いてスポーツはいいなと思った。



目隠しをしながら歩くのは、付き添いの人に指示してもらっても怖くてなかなか歩けなかった。付き添う人との信頼関係が必要だと感じ、障がいがある方とコミュニケーションを取ることはとても大事だと思った。  
車椅子体験では、他の班と比べてゆっくり押してもらったので、とても安心できた。しかしそれでも、小回りがかかれば障害物にぶつかってしまい、難しいと感じた。



## やさしく思いやりのある声かけを

今回、中沢中学校で障がい福祉体験授業の講師を務めた、伊勢原市障がい者くらしを考える協議会の当事者部長で視覚障がいの当事者である早乙女さんに話を伺いました。



早乙女 松男さん (岡崎・75歳)

私は当事者部長の部長として、障がいがあっても暮らしやすい地域を目指し、障がい当事者の視点で情報交換や課題検討を行っています。  
私自身、1歳になる前に角膜が濁ってしまう病気にかかりました。全く目が見えないわけではなかったですが、視力はとても弱か

ったです。小学校からは東京の盲学校に通い、マッサージや、はりきゅうの勉強をして、将来教員になるという目標を持つようになりました。  
22歳で平塚の盲学校に教員として赴任し、約40年間勤務しました。しかし、退職後に網膜剥離にかかり、目の前にある物を認識することも難しくなっていました。そこからは盲導犬と一緒に生活し、補助してもらっていましたが、その盲導犬も引退し、現在外出する際は白杖を持っています。  
日常生活では情報を得ることが大変で、音声を読み上げてくれるサービスや機械を頼っています。広報いせはらの声の広報もその1つです。また、住み慣れた家の中は、ある程度どこに何があるか

かりますが、慣れない場所では手探り状態です。家族がいないときは、ガイドヘルパーに付き添ってもらうこともあります。  
また、レストランなどでは、機械を操作して注文する店舗が増えました。一般には便利だと思いますが、私たち視覚障がいがある人にとっては操作できず、とても不便に感じます。まだまだ当事者が抱えている問題や悩みは多くあると思います。それらの思いを吸い上げ、市に生の声を伝えることが私の役割です。  
障がいの種類や程度は人それぞれです。だれがどのような手助け



バリアフリー体験でお手本を見せる早乙女さん

を必要としているかは分かりませんが、もし、困っている人を見かけたら、まずは優しく声をかけていただけたらうれしいです。コミュニケーションを取る事でその人が必要としていることが分かると感じます。

## 産業能率大学生の協力で障がい福祉事業所紹介動画を作成

令和3(2021)年度から産業能率大学の協力により、就労を考える障がい者に向けて、障がい福祉事業所の雰囲気や魅力を分かりやすく伝えられるよう、学生と一緒に事業所ごとの紹介動画を作成しています。  
学生目線で事業所を取材し、利

用者のインタビューや施設長の声などを交えて、利用時のイメージが伝わりやすいよう、工夫された内容になっています。  
作成した動画は、自宅でも事業所の様子が分かる大変好評で、今年度も施設の紹介動画を作成・公開しています。



動画発表会の様子

### 事業所紹介動画を公開中

紹介動画は市ホームページ「健康・福祉」→「施設・事業所」、または右のQRコードからご確認ください。

来年度も引き続き紹介する事業所を増やしていく予定です。  
市ホームページ



話を聞いて動画のコンセプトを固めます



普段過ごしている施設の様子を紹介



農業を行う事業所もありました